

～ お客さまファーストの銀行へ ～



THE FIRST BANK OF TOYAMA

2025年3月期 第2四半期決算概要

2024年11月8日 (金)



もっと好きになる

 富山第一銀行

(東証プライム：7184)

弊行は2024年10月1日に創立80周年を迎えました。



もっと好きになる

弊行は、本年10月1日に創立80周年を迎えました。お客さま方の変わらぬご支援により、幾多の試練を乗り越えてまいりました。2016年3月には、東京証券取引所市場第一部（現プライム市場）に上場しました。

近年は、お客さまの課題をともに考え、お客さまファーストの金融機関として成長を認めていただけるようになってきていると実感しております。

地域経済の活性化に向けて、さまざまな資金ニーズに安定した資金供給できる財務体質強化や、事業者向けのコンサルティングサービス、個人のお客さまの資産形成をご支援するサービス提供力を高めつつ、次の90周年、100周年を迎えるため、一回り大きくなった富山第一銀行グループの将来像を目指してまいります。

今後とも富山第一銀行を宜しく願います。

1 2025年3月期 中間決算サマリー



もっと好きになる



連結 (百万円)	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比
経常収益	19,485	29,234	9,749
経常利益	5,012	14,866	9,853
親会社株主に帰属する中間純利益	2,807	10,508	7,700

単体 (百万円)	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比
業務粗利益	8,616	11,039	2,423
(除く国債等債券損益)	10,309	11,562	1,253
資金利益	9,807	11,069	1,262
役務取引等利益	749	835	86
その他業務利益	△ 1,940	△ 866	1,074
うち国債等債券損益	△ 1,692	△ 522	1,169
経費(除く臨時処理分) (△)	5,710	6,331	620
人件費 (△)	2,702	2,930	228
物件費 (△)	2,536	2,805	268
税金 (△)	472	595	123
業務純益 (一般貸倒引当金繰入前)	2,905	4,708	1,802
コア業務純益	4,598	5,230	632
(除く投資信託解約損益)	4,478	4,871	393
一般貸倒引当金繰入額 (△)	449	—	△ 449
業務純益	2,456	4,708	2,251
臨時損益	2,441	10,274	7,833
うち株式等損益	3,696	9,569	5,873
うち不良債権処理額 (△)	1,263	△ 43	△ 1,306
経常利益	4,897	14,982	10,085
特別損益	△ 0	9	9
中間純利益	2,790	10,899	8,109

2025年3月期 連結中間決算の概要

- 連結経常収益は、**資金運用収益の増加と有価証券評価益の実現益の計上**が前倒しで進み、前年同期比9,749百万円の増収
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比7,700百万円増加の**10,508百万円 (年率274.3%増)**と大幅な増益

(単体決算の概要)

コア業務純益 (除く投資信託解約損益) 4,871百万円 (年率8.8%増)

- 経費は物件費・人件費を中心に増加も、資金利益が貸出金利息・有価証券利息配当金の増加を主因として順調に推移した結果、**銀行の本業利益を表すコア業務純益は4年連続増益となり、中間期としては過去最高を更新**

経常利益 14,982百万円 (年率205.9%増)

- 与信関係費用の大幅減少に合わせ、期初からの計画を前倒した株式等売却益の計上により、「経常利益」は大幅な増益

中間純利益 10,899百万円 (年率290.7%増)

- **好調なコア業務純益と順調に有価証券の実現益が計上でき、4期連続の増益**当初の中間業績予想を30億円超過

2 コア業務純益の状況等

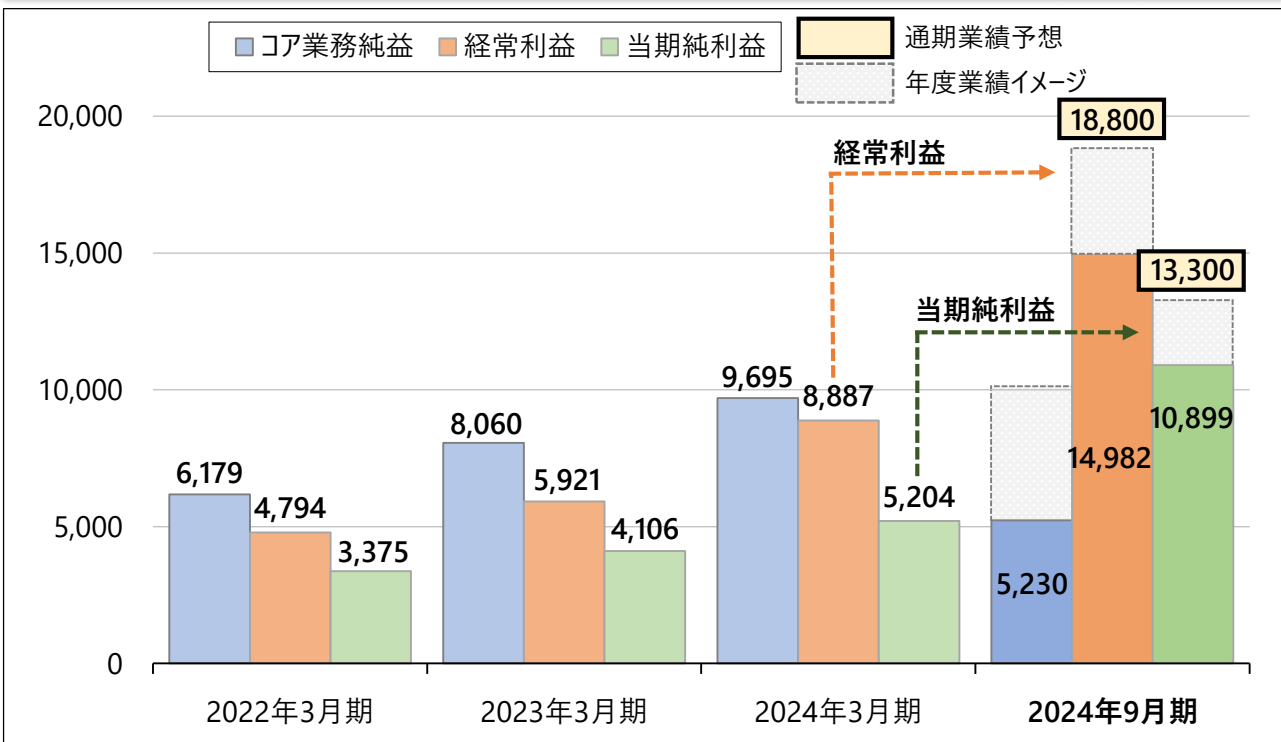


もっと好きになる

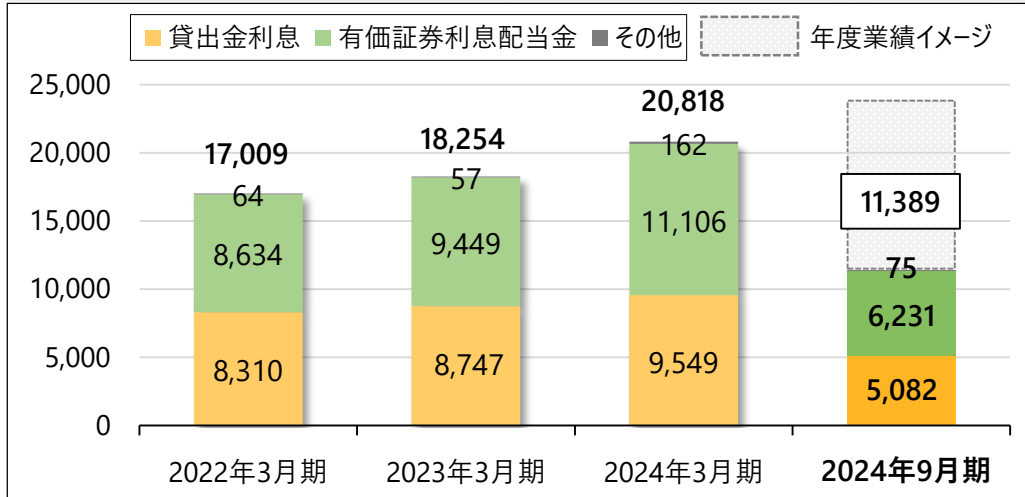


- 貸出金利息は残高増加と利回りの改善により**3年連続で増加**
- 有価証券利息配当金は株式・投資信託の増配等から過去最高を更新**
- 役員取引等利益は、取組みを強化してきた法人・個人向けコンサルティング業務の成果が拡大、増加基調が継続し、中間期として最高益を更新**

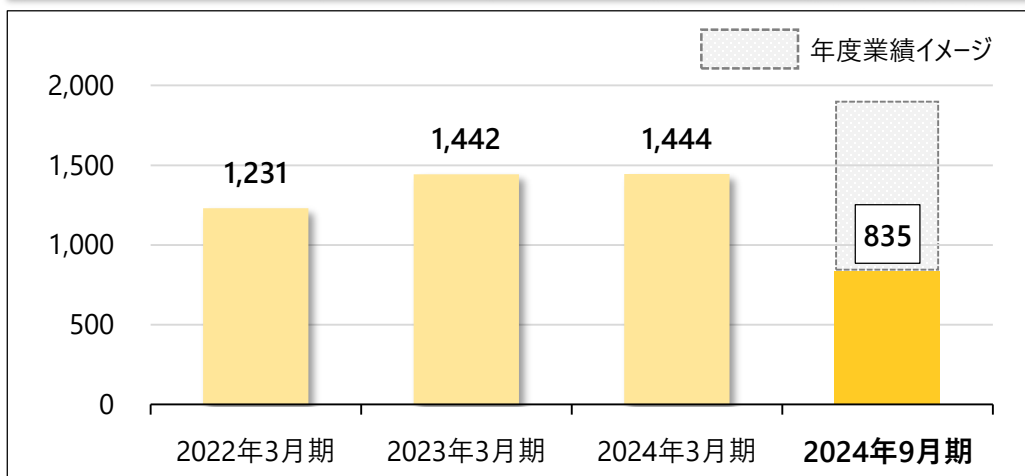
コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移 (単体・百万円)



資金運用収益の推移 (単体・百万円)



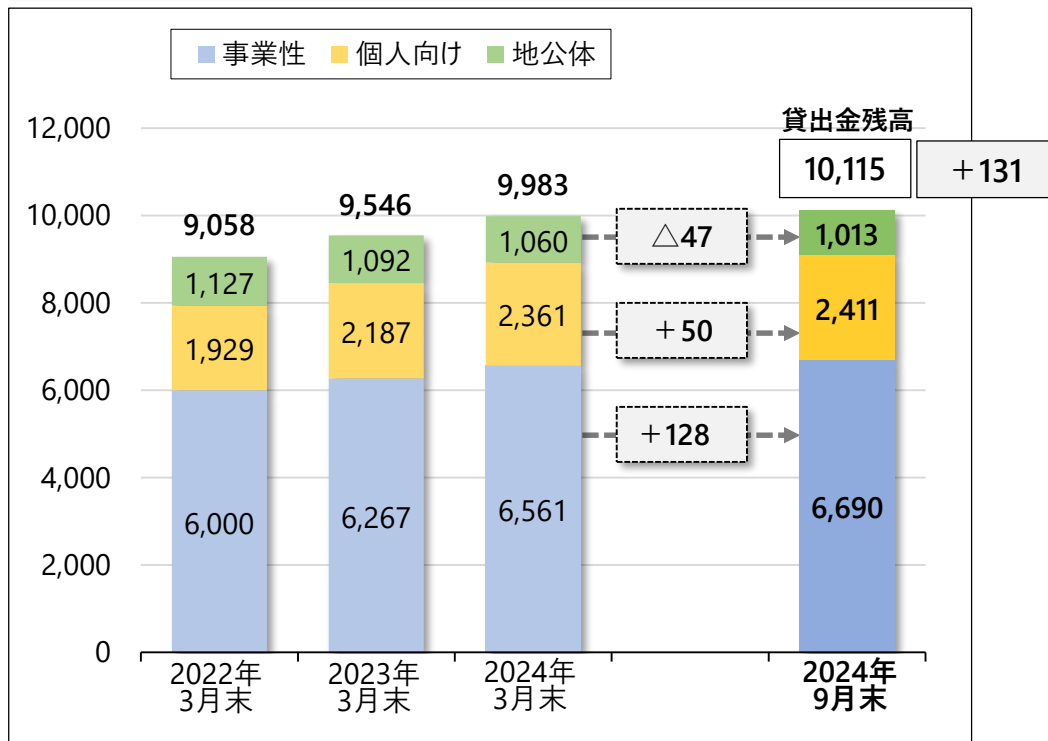
役員取引等利益の推移 (単体・百万円)



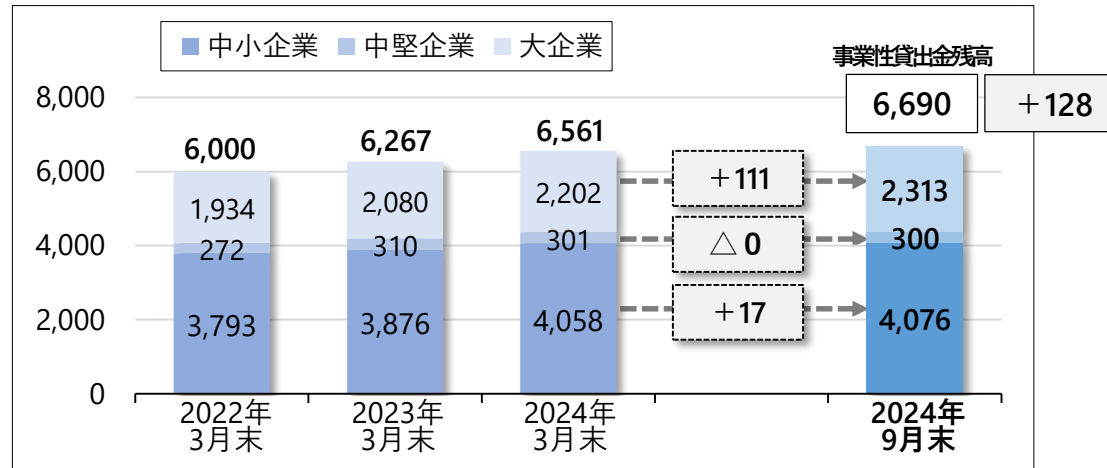
3 貸出金の状況

- 貸出金残高は **事業性・個人とも増加**
- 事業性貸出金は、省力化設備への底堅いニーズや原材料価格上昇による運転資金のニーズ、サステナブルファイナンスニーズへの対応により増加
- 商品性が好評を得ている住宅ローンも、**増加基調が継続**

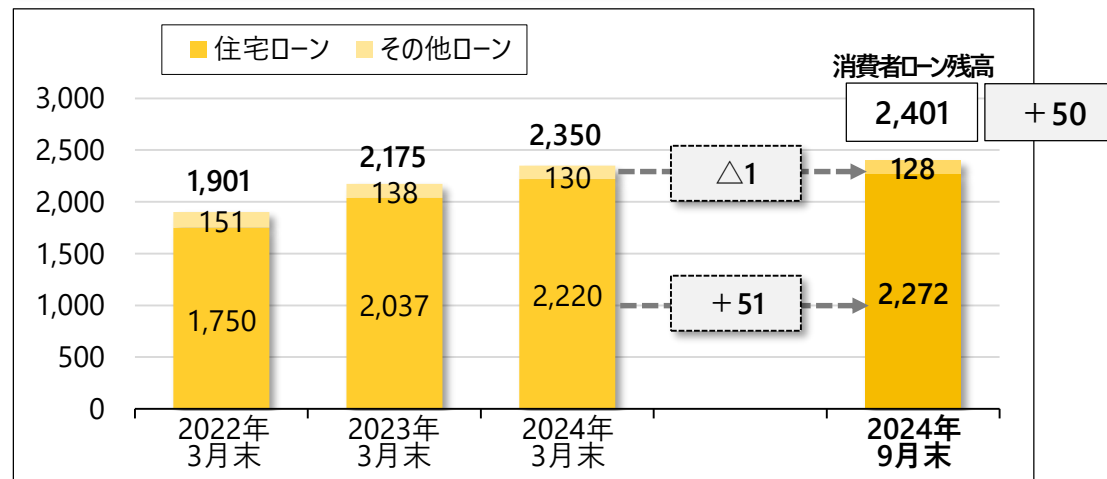
貸出金残高の推移 (単体・億円)



事業性貸出金残高の推移 (単体・億円)



消費者ローン残高の推移 (単体・億円)



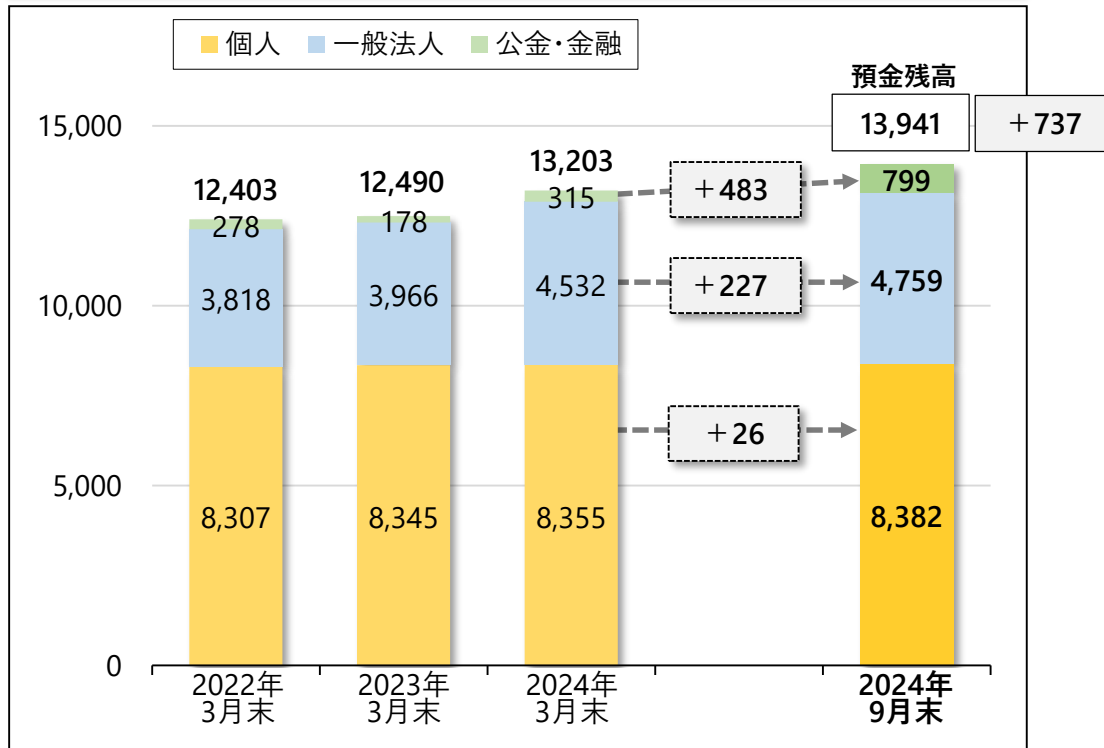
4 預金、個人預り資産の状況



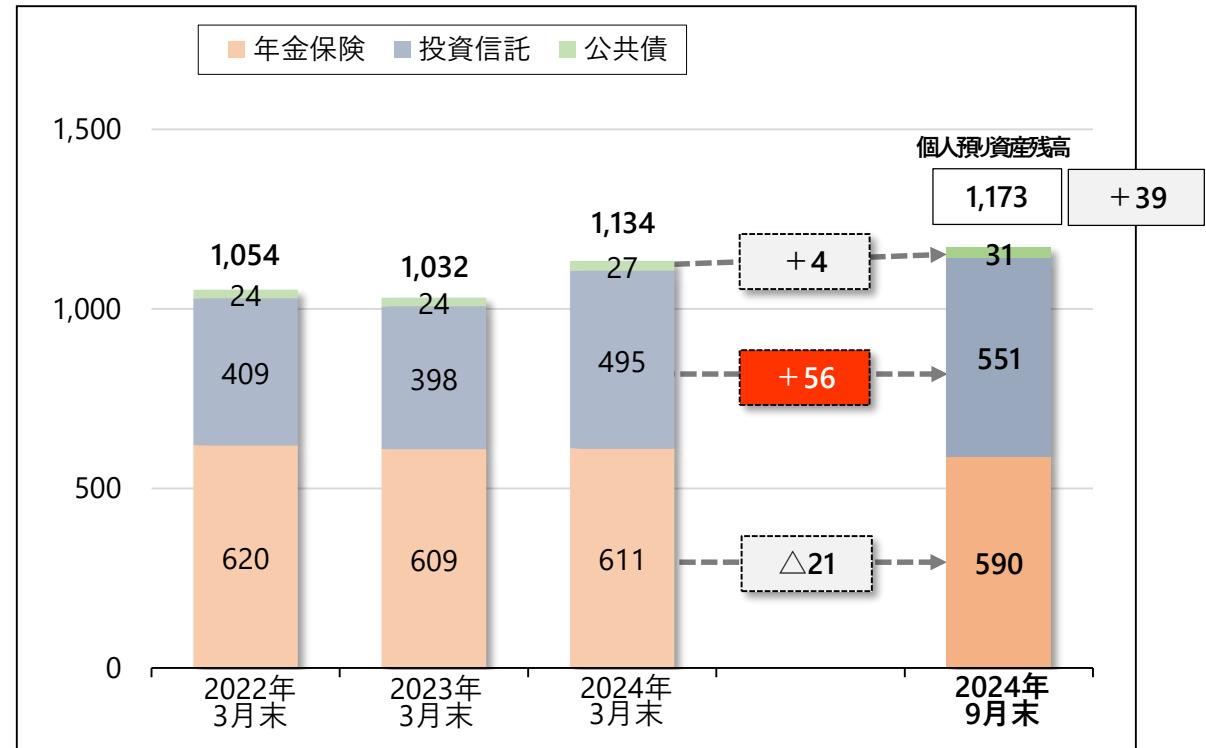
もっと好きになる

- 預金は、政策金利の引上げ後も、「個人」・「一般法人」・「公金・金融」の各セグメントで着実に増加
- 新NISAを含めた長期の視点による資産形成支援の取組みや、きめ細かなコンサルティング営業の定着により、投資信託残高は大幅に増加

預金残高（除く譲渡性預金）の推移 (単体・億円)



個人預り資産残高の推移 (単体・億円)



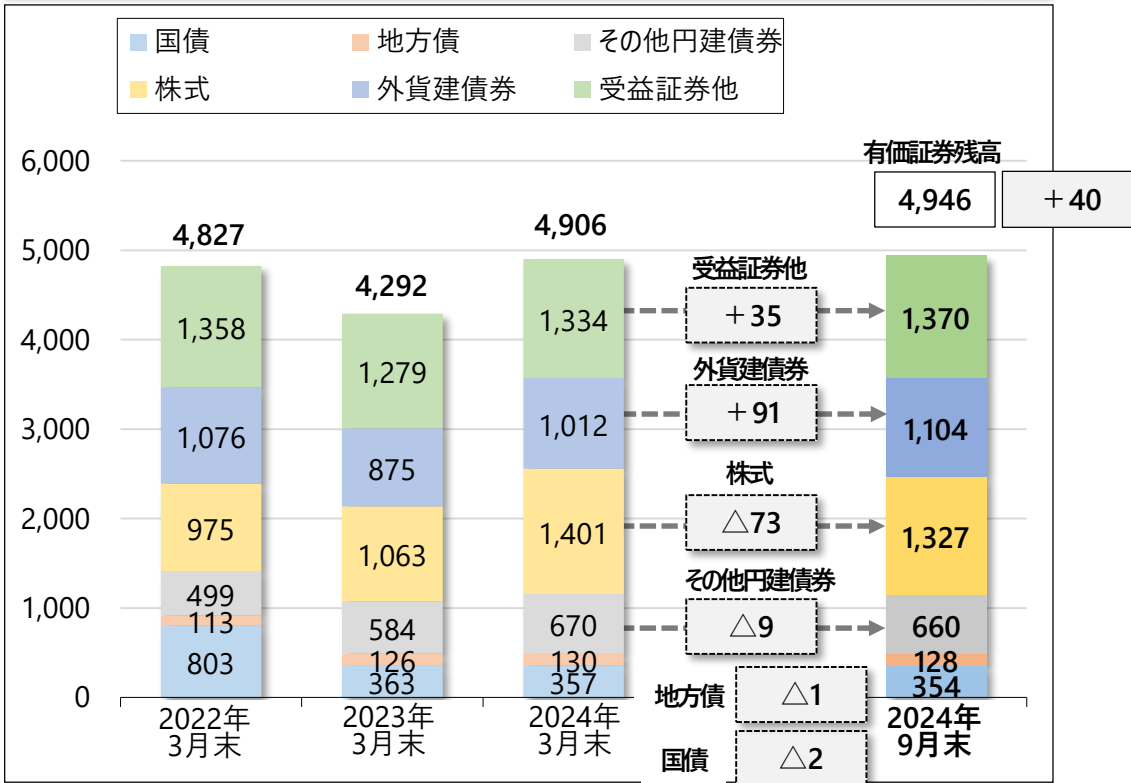
5 有価証券の状況



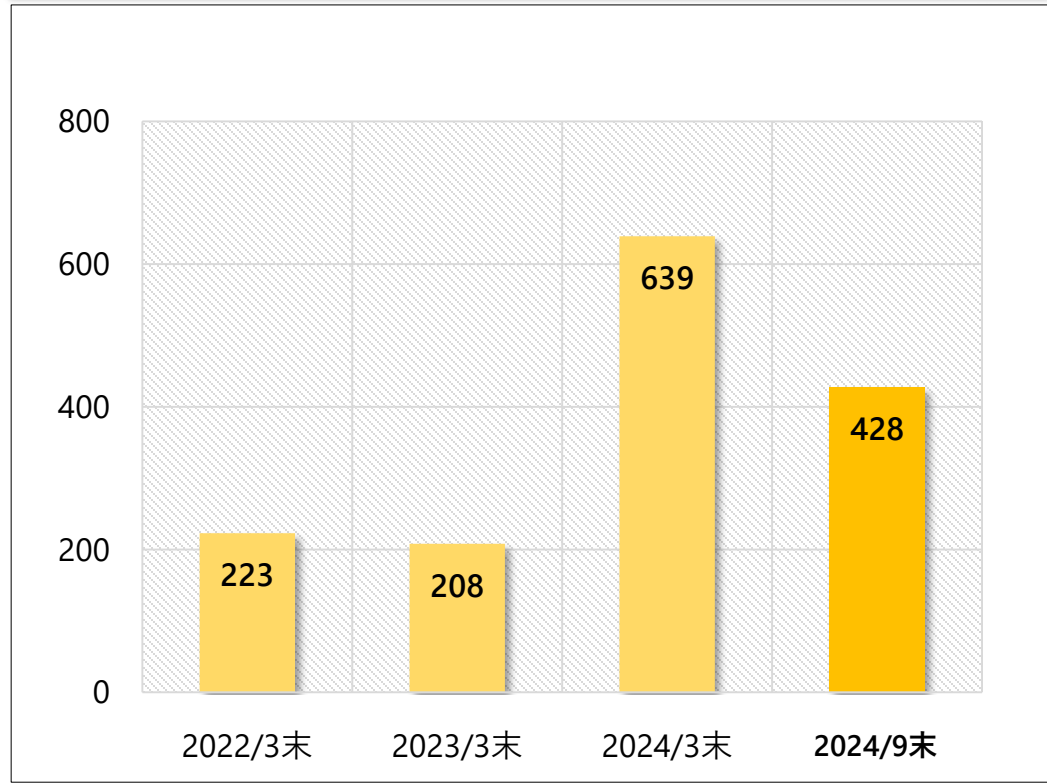
もっと好きになる

- 2024年9月末における「**その他有価証券評価損益**」は、株式の含み益の一部を実現益として計上後も**428億円と高水準を維持**
- 有価証券の収益拡大に向けて、株式・米国債・投資信託等、価格変動リスクをはじめとする各種リスクをコントロールしつつ、利回りの高い商品に入替を図りながら、**残高を増やした結果、資金利益の増加に大きく貢献**

有価証券残高の推移 (単体・億円)



その他有価証券評価損益 (単体・億円)



6 利回り・利鞘の状況 / 経費・コアOHRの状況

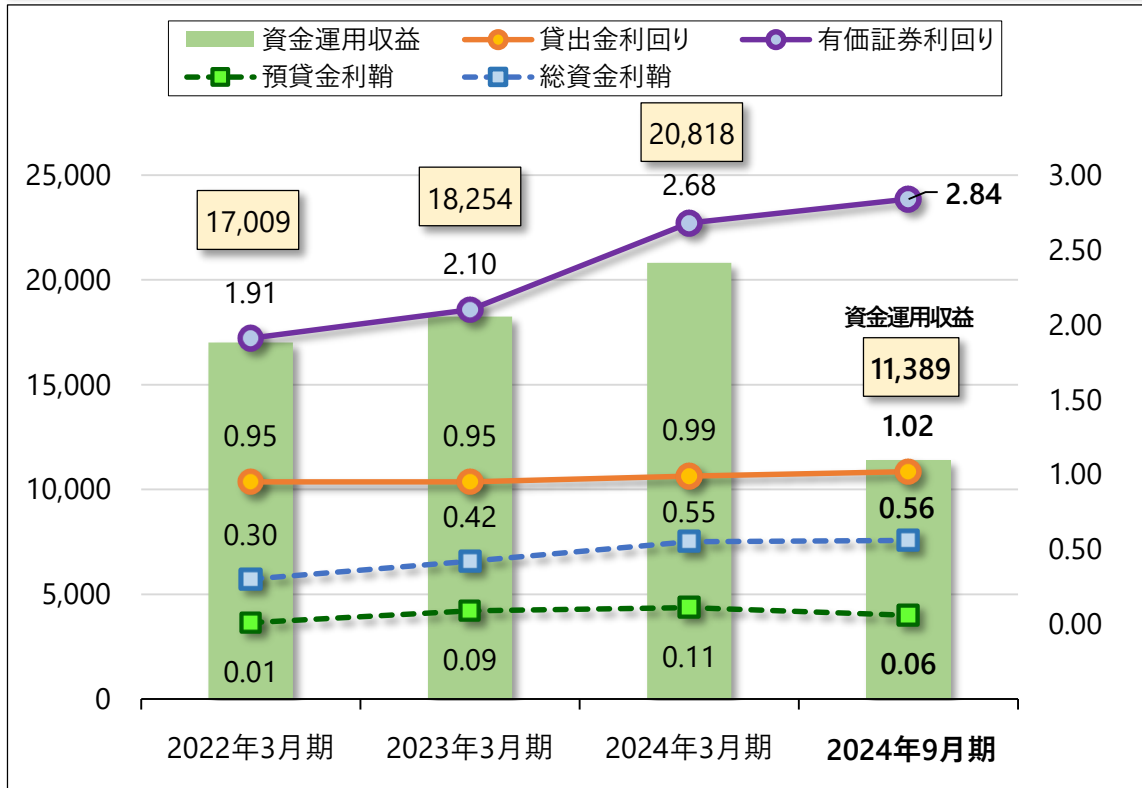


もっと好きになる

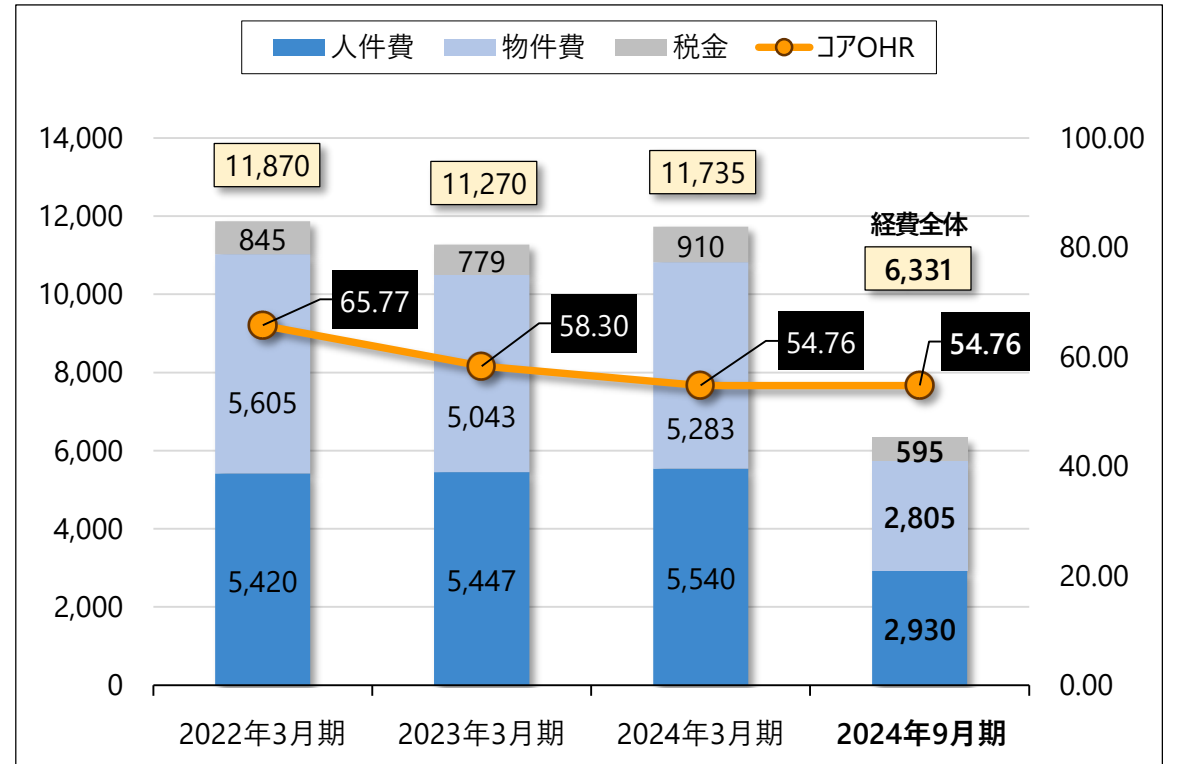


- 有価証券利回りは、高水準を維持し、**地銀トップクラス**
- 貸出金利回りは、**明確に上昇基調へ**
- 物価上昇や賃上げによる人件費の増加により経費は増加傾向にあるも、**コア業務粗利益の増加によりコアOHRは横ばい**

資金運用収益・利回り・利鞘の推移 (左軸：百万円、右軸：%)



経費・コアOHRの推移 (左軸：百万円、右軸：%)



※ コアOHR = 経費 ÷ 業務粗利益 (除く国債等債券損益)

7 2025年3月期 業績予想



- 決算発表時に公表のとおり、当期はバーゼルIIIを見据え、有価証券評価益の一部を実現益とし、内部留保として自己資本へ積み増し
- 有価証券の売却は計画以上の実現益を計上。また、与信費用は当初想定を下回り、業績予想を上方修正
- 上方修正を踏まえ、成長投資や機動的な自己株式取得等、更なる企業価値の向上に向けて取り組みすることを検討する

連結	(金額単位：百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想 (5月10日・修正前)	2025年3月期 予想 (10月28日・修正後)
	経常利益		9,223	17,800
親会社に帰属する当期純利益		5,284	12,000	13,000

単体	(金額単位：百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想 (5月10日・修正前)	2025年3月期 予想 (10月28日・修正後)
	経常利益		8,887	17,000
当期純利益		5,204	11,500	13,300

(連結)
130億円
上方修正
120億円
当初開示予想

当期純利益

52億円

当期純利益

2024年3月期 実績
2025年3月期 通期業績予想

ファーストバンクVISION10 計数目標進捗

- コアビジネスによる利益成長
- コンサルティング機能の深化
- 成長投資
- 自己資本比率

1st STAGE 計数目標	2028/3期	2024/3期	2024/9 中間期
当期純利益	60億円程度	52億円	108億円
株主資本ベースROE	6%	5.34%	20.77%
コアOHR	60%未満	54.76%	54.76%
自己資本比率	10%	11.02%	11.75%

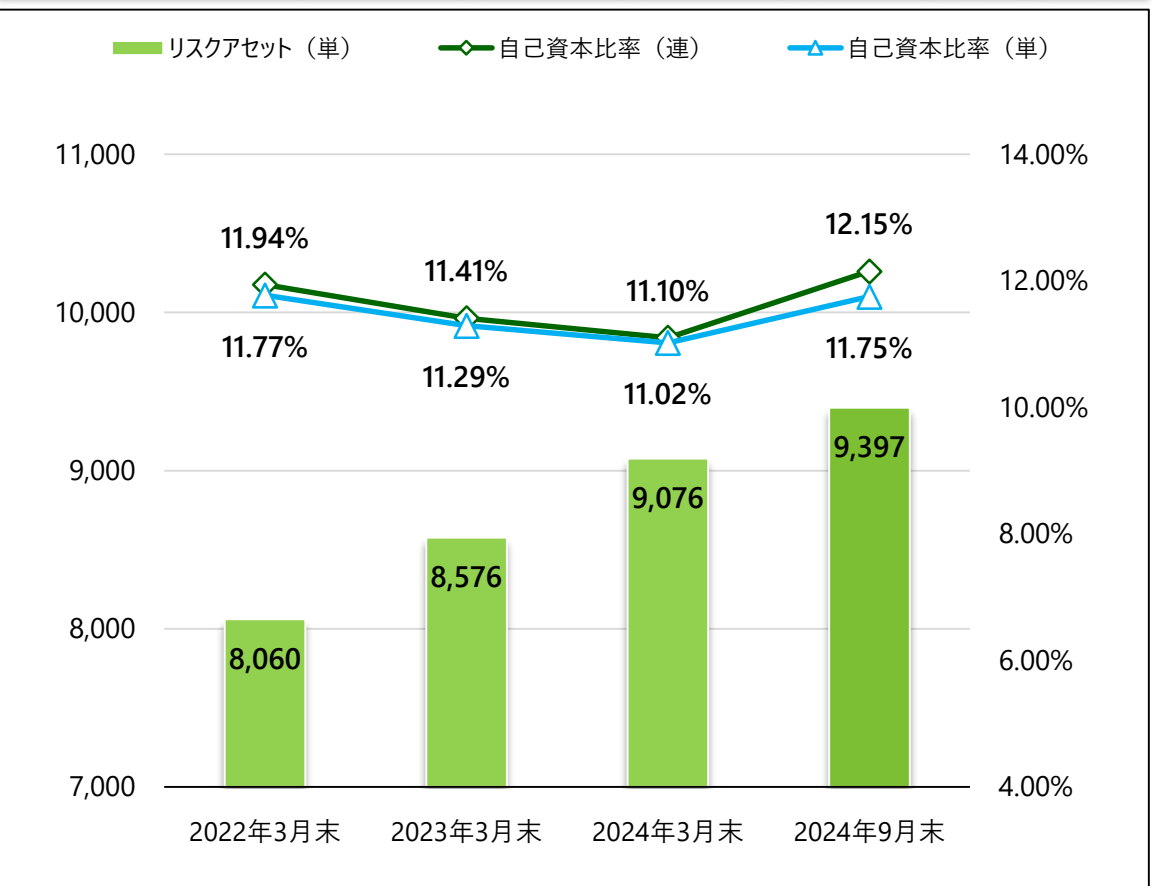
8 自己資本比率の状況



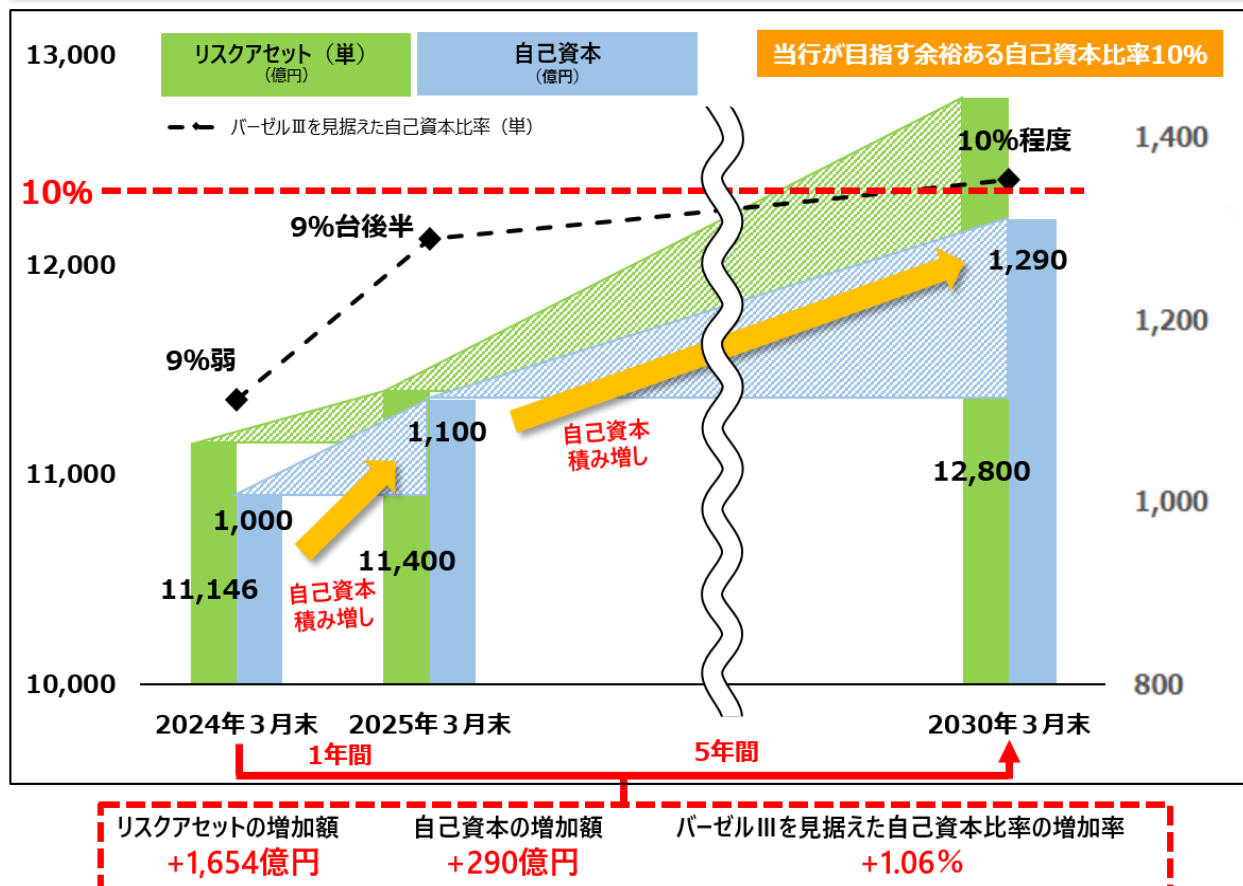
もっと好きになる

●決算発表時に公表のとおり、バーゼルIII完全実施を見据え、有価証券評価益の一部を実現益とし、内部留保として自己資本へ積み増し
その結果、**2024年9月中間期における自己資本比率は、連結12.15%、単体11.75%となる**

自己資本比率（連・単） / リスクアセット（単・億円）



自己資本の積み上げの考え方（バーゼルIII完全適用した場合のシミュレーション）

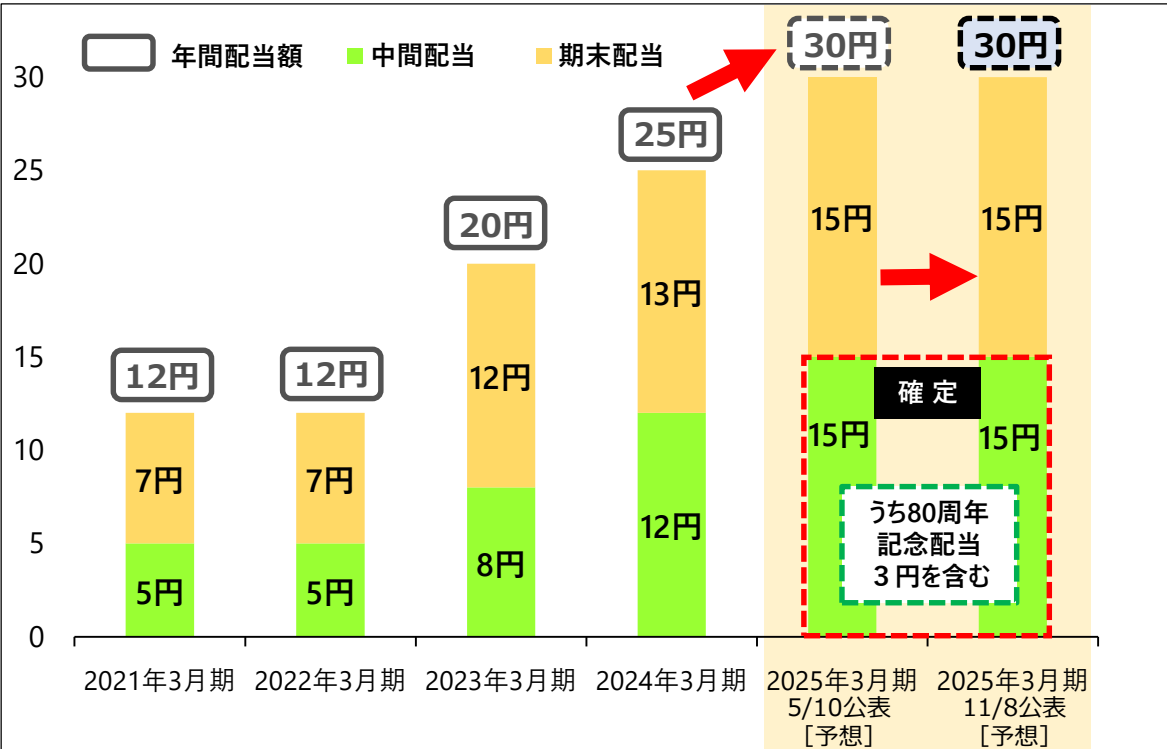


9 剰余金処分



● 2025年3月期の中間配当額は、3円の80周年記念配当を含む15円
 2025年3月期の期末配当予想は15円とし、年間配当額は30円と当初予想を据え置く（2024年3月期対比 **5円の増配**）
 ● 通期の業績予想を踏まえ、今後、機動的な自己株式取得等、更なる企業価値の向上に取り組むことを検討

配当実績と予想



当期の配当への考え方

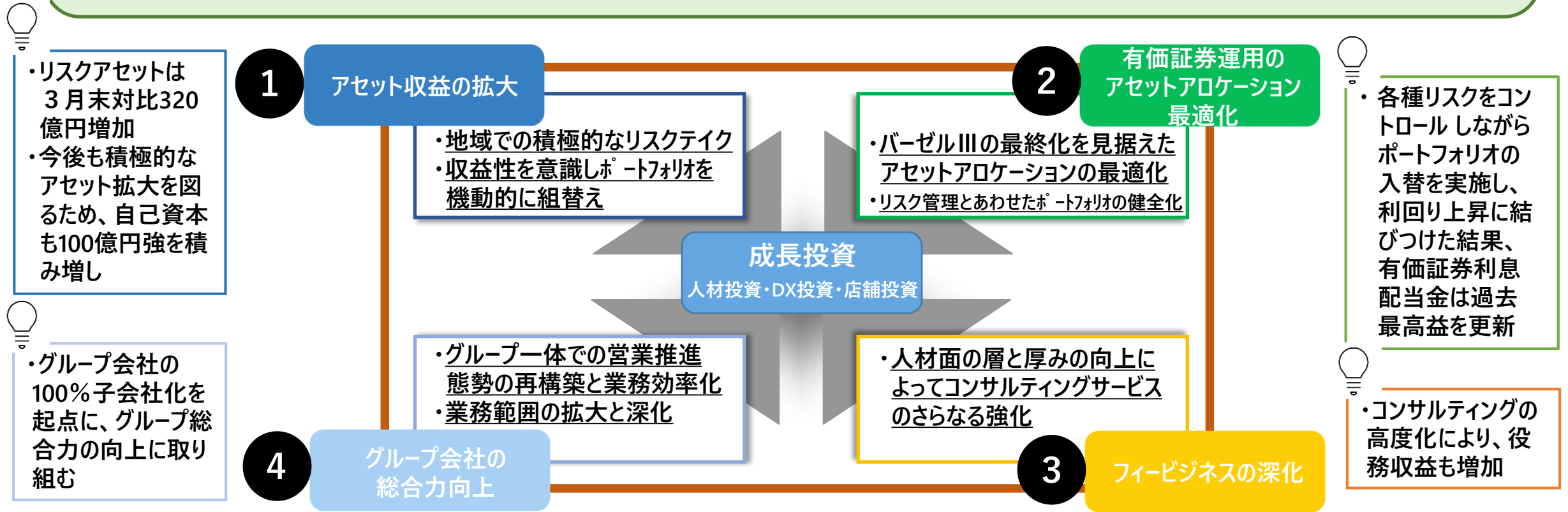
- ◆ バゼルIII完全実施後への対応として、配当後の残余は全額自己資本へ積み増す
- ◆ 配当については、当初予想を据え置くも、3年連続の増配を予定

10 企業価値向上に向けた取り組み



もっと好きになる

- 本年5月に公表した「株価と資本コストを意識した経営の実現に向けての取り組み」でもご説明のとおり、地域での積極的なリスクテイクなどによって貸出金を中心にリスクアセットは増加し、アセット収益は拡大
- 予定していた内部留保への自己資本の積み増しも計画どおり実施
- 今後、「最適な資本水準」「成長投資」「株主還元」のバランスを考慮しつつ、企業価値向上を目指す



- 本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものです。特定の有価証券等の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された内容の全部または一部は、予告なしに修正または変更される場合があります。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。当該記述につきましては、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等の要因により、実際の数値と異なる可能性があることにご留意ください。

本件に関するご照会先

 **富山第一銀行 総合企画部**

TEL 076-461-3861

FAX 076-491-4162

E-mail souki@first-bank.co.jp

URL <https://www.first-bank.co.jp/>